



SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報  
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94  
七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

薬師寺玄奘三蔵院大唐西域壁画完成記念

平山郁夫展を閉催

平成11年に当美術館で開催され好評のうちに終了し、その後も再度の要望が多く寄せられておりました平山郁夫画伯の企画展が、9月29日から10月28日までの会期で開催されました。今回の企画展は奈良・薬師寺に建立された玄奘三蔵院壁画殿に納められた「大唐西域壁画」の完成を記念して、壁画制作のために描かれた小下図・大下図・素描画や、およそ30年にわたる取材旅行でのスケッチなどの資料を紹介するものです。パームの石窟の爆破工作やアフガニスタン周辺の状況緊迫化などの国際情勢を反映して、訪れた多くの来館者は真剣な表情で展示を注視していました。

9月28日正午、関係者一同が美術館前でテープカットをして開催を宣言しました。そして隣接する道の駅たちのへ内「レストラン絵馬」を会場にオープニングレセプションが開催されました。

主催地を代表して福士孝衛七戸町長より開催の挨拶があり、来賓の平山郁夫美術館平山吉雄館長、薬師寺松久保秀胤管主よりご祝辞を頂戴いたしました。

また、レセプション終了後美術館内で平山館長によるギャラリートークが催されました。

今回の企画展にも内外より多くの方がおいでになり、会期中の来館者は12、455人を数えました。友の会の会員の皆様が今回も会場監視スタッフや会場準備・受付窓口などに参加され、運営に協力いたしました。

八戸市美術館  
ボランティア研修会  
と交流

平山展開催中の10月4日、県南地方の美術館として日頃より交流のあります八戸市美術館のボランティアの皆様が来館され、友の会の活動に関して視察研修をされました。

友の会からは会長はじめ役員が出席して、企画展での監視スタッフとしての協力や、友の会会報発行の状況、そして絵画購入資金の寄付や入館料相当額の納付などについて活動の状況を説明しました。

美術館に対する支援団体としての課題について、様々な意見を交換することができ有意義な交流の場となりました。

木村県知事来館

木村守男青森県知事は10月19日美術館に来館し、開催中の平山郁夫展を鑑賞されました。

御自身も折に触れスケッチをされるといふ知事は、鷹山館長・大池学芸員の案内で館内を廻られました。今回の企画展で初めて導入された、平山画伯自身が生解説する音声ガイドシステム

を装着し、ひとつひとつの展示内容に興味深く注目されていました。



奈良・薬師寺  
松久保管主御講演

今回の平山展に制作資料が展示された「大唐西域壁画」が献納されました法相宗大本山奈良・薬師寺の管主松久保秀胤師が、オープニングレセプションで挨拶を述べられたのに引き続き、10月21日再度来町し講演をされました。

この講演会は北東北・北海道地方で唯一開催された企画展に関して地元の皆様へ感謝の気持ちを表すとともに、同壁画が献納されるまでの歴史と平山画伯の熱

意について語りたいと自らお申し出があり急速実現したものです。

松久保管主は講演会終了後も美術館に出向き、出発直前まで作品を前に数々のエピソードを語られ、参加した多くの聴衆は得難い機会に感動を新たに聞き入っていました。

なお講演会の模様は本展共催の青森放送(株)によりRABラジオで県下に放送されました。



美術館玄関改修工事完了  
自動ドア設置

平山展終了後、美術館では改修工事が実施され玄関入口が自動ドアになって、バリアフリー化が進進しました。

# 岩手県立美術館開館記念鑑賞の旅に参加して

十和田市

中野 久子

10月27日  
(土) 十和田市

から8時20分に  
乗車させていた  
だきました。好  
天に恵まれ、東  
北自動車道の  
両側の紅葉を眺  
めながら盛岡に  
むかいました。2  
時間ちよつとで  
到着。

10月6日にオ  
ープンしたばか  
りの岩手県立美  
術館は広々とし  
た地形に建築  
されていますし  
た。

「アイスアリー  
ナ」や「先人記  
念館」等の建物  
が側にあり、J  
R盛岡駅から直



通バスも出ており、交通の便もよいところです。  
美術館の学芸課長の佐々木さんから美術館についての概要を伺いました。企画展示(特別展など)と常設展示(岩手県内にゆかりのある方の作品)があるとのこと。今回は開館記念展、そのひとつとして、「メルツバツハー・コレクション展」色彩の遊び」が開かれておりました。今まで外に出したことがない(?)、

名作揃いで、フォービズムはなやかな時代の作品やドイツ表現主義の画家が充実し、また印象派の作品もあるとの説明を受けた後にわくわくして見学をはじめました。  
私は今まで美術館で見たことのある画家のモディリアーニやゴッホ・クレール・ルノワール・シャガール等の作品に出会ってほつとした気持ちになりました。

マルクの作品を見たのは今回初めてのような気がします。印象的でした。

「萬鉄五郎」や「松本竣介・舟越保武」の展示室もあり、ゆつくり見学できました。

講演会・コンサート・ワークショップ等が出来るように造られており館内は天井が高く見学者が疲れないような設計で、美術館の建物が作品のようでした。

これから完成する青森県立美術館が景気に左右されず、岩手の美術館のように素敵な美術館に誕生することを願いながら、

バスにゆられて帰路につきました。ありがとうございました。

友の会会員

友の会会員

今回御一緒できなかった皆様も是非一度足をお運び下さい

## 岩手県立美術館

へのご案内

### アクセス

住所 〒020-0866  
岩手県盛岡市本宮字松幅12-3  
tel 019-658-1711  
fax 019-658-1712  
URL <http://www.ima.or.jp>  
e-mail [info@ima.or.jp](mailto:info@ima.or.jp)  
開館時間 10:00~19:00(入館は18:30迄)  
休館日 月曜日  
月曜日が祝日の場合は開館します。  
年末年始 12月29日~1月3日

### 交通ルート案内

JR盛岡駅から  
岩手県交通バスアリーナ線  
「先人記念館」行き乗車、「県立美術館前」下車  
または、盛南ループ『200』乗車、  
「アイスアリーナ前」下車、徒歩5分  
または、タクシーで10分

### 展覧会

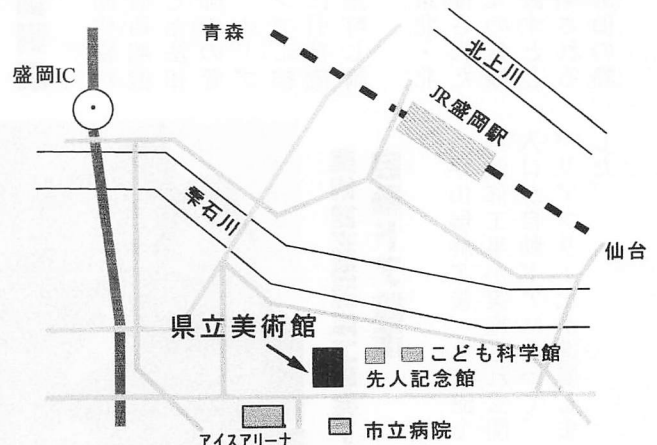
#### 常設展示室

- ▶ 常設展示室
- ▶ 萬鉄五郎展示室
- ▶ 松本竣介・舟越保武展示室

#### 企画展示室

- ▶ 定期的に開催される展覧会
- ・モネ展 睡蓮の世界

2001年12月18日【火】~2002年2月11日【月】



「第1回鷹山賞児童作品展」入賞30点・入選203点作品決まる！授賞式&  
「JQA第1回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」レセプション開催！

青森県南部地方在住の児童生徒を対象に公募した、七戸町教育委員会主催、財団法人鷹山宇一記念美術振興会共催による絵画コンクール「第1回鷹山賞児童作品展」入賞・入選作品がこのほど決定しました。作品展会期初日に当たる11月23日(金)、主賓としてJQA小野雅文会長をお招きし、入賞者授賞式並びに本展とJQA第1回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展のオープニング・レセプションが開催されました。

「子どもの感性は風土の中で培われる。」「そのような意識の下、鷹山宇一を顕彰した児童生徒絵画コンクール」第1回鷹山賞児童作品展」がこのほど開催



の濱田進先生、福士孝衛町長、佐藤亘教育長、鷹山ひばり美術館長、以上の4名より行われました。小学生の部、中学生の部ともに、甲乙つけ難い素晴らしい作品ばかりで、審査は難しいものとなり、最高賞である鷹山賞をはじめ、七戸町長賞、美術館長賞を含む入賞作品30点のほか、新たに入選を設け、203点が選ばれました。

併催のJQA第1回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展のオープニング・レセプションを開催しました。JQA第1回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展は、地球環境をテーマに世界各国の子どもたちに公募した絵画コンテストから、優秀作品を紹介するものです。自由な想像力、多様な表現の仕方、そして色彩の美しさ、そのレベルの高さには大変驚かされました。鷹山賞児童作品展とともに、第2回展以降も是非開催してまいりたい展覧会です。



審査の様子。審査員としてお越しいただきました二科会会員・濱田進先生(右)

入賞者授賞式は11月23日(金)、入賞入選作品233点がズ



鷹山賞小学生の部を受賞した三沢市立上久保小学校3年生岡井貴之君(下)と水彩画『おなかすいたよ』(右)



ラリと展示されたスペイン民芸資料館において、入賞者のご家族、担当の先生方、関係各位約70名が見守るなか行われました。子どもたちの緊張しつつも誇らしげな様子が大変印象的でした。また、授賞式に引き続き、第1回鷹山賞児童作品展と、



▲鷹山賞(中学生の部)を受賞した七戸町立西野中学校3年生佐々木優太君(左上)と版画『卓球』(右上)



絵画は、国や文化の違いなどという垣根を超えて、世界共通の言語です。両展覧会が、子どもたちの鋭い感性にどのように響いていることでしよう…。これがひとつの励みとなつて、これからも自由な創造の喜び、描くことの楽しさを味わつて制作してもらえたら、望外の幸いと存じます。来年度の第2回展が今からとても楽しみます。子どもたちはみんなアーティスト！です。

美術館休館日のお知らせ

■年末年始■  
平成13年12月30日(日)→  
新年1月2日(水)迄  
※新年は1月3日(木)から通常どおり開館いたします。

■館内整備のため■  
2月1日(金)→2月8日(金)迄

■定休日■  
毎週月曜日  
※但し、祝祭日に当たる場合は開館し、翌日が休館日となります。



新年も皆様のご来館を心からお待ちしております

# 12月10日 鷹山宇一先生誕辰記念日

## 「遊蝶記」から



「ケーキを手に皆さんでハッピーバースデーの歌を！」

昨年、毎年お誕生日に開催してまいろうと、鷹山宇一先生を偲ぶ「遊蝶記」を、本年も12月10日(月)、正午12時から美術館2階工房において開催しました。朝から雪の降りしきる寒いなか、友の会会員をはじめとする関係各位約30名が参加しました。

皆さんもご承知のとおり、鷹山作品には花や静物など様々なモチーフとともに、必ず蝶が描かれています。また、「遊蝶・花」と名付けられた作品も多く見られます。

この遊蝶記は、「記憶」「記録」「記述」の言葉の

とおり、鷹山宇一先生をいづまでも私たちの心の中に、美術館の歴史の中に書き残しておきたい、そのような思いで名付けられ、開催するものです。

2回目となる今年の遊蝶記も、皆さんとハッピーバースデーの歌を歌い、ケーキのロウソクの火を吹き消して、93回目の誕生日を祝いました。

続いて、昨年参加の皆さんには、「来年への抱負」を書いてもらい次の遊蝶記で開封する、ということにしておりまして、このたびこれをお返ししました。果たして、心中に抱いた計画は実現できましたでしょうか？また今年も同様に、皆さんには抱負を記入してもらい、封印後箱に入れて次の遊蝶記での開封を約束しました。

このあと、軽食をとりながら自薦他薦のなかマイクを回しては鷹山先生との思い出を語り合う歓談の時間となり、和やかなひとときを過ごしました。

鷹山先生を偲び、そして、今年のような出来事を振り返り、来年への抱負を胸に心を新たに、1年間を締めくくる「遊蝶記」となりました。

再現した「鷹山宇一のアトリエ」は、冬期間の常設展でもご覧になれます。是非「来館下さい」

### 美術館日誌

#### 【9月】

- ◇七戸町国際交流協会 30名 様来館。(1日)
- ◇藤子・F・不二雄の世界展 最終日、総入館者数25,455人を記録。大利小学校43名様来館。(2日)
- ◇藤子F展撤去作業及び常設展示のため臨時休館。(3、7日)
- ◇とうとう心蔵友の会 39名様 常設展を見学。(9日)
- ◇「エフエム青森」電話生取材大池学芸員出演。(18日)
- ◇木造町文化団体 27名様来館。(21日)
- ◇平山郁夫展展示作業のため臨時休館。(25、28日)
- ◇平山郁夫展テラプカット及びオーブニングレセプション開催。平山郁夫美術館平山館長、薬師寺松久保管主、共催の青森放送関係者当財団役員他出席。レセプション終了後平山館長によるギャラリートークを開催。(28日)
- ◇薬師寺玄奘三蔵院大唐西域壁画完成記念「平山郁夫展」初日。(29日)

#### 【10月】

- ◇鷹山館長RABラジオに生出演。(1日)
- ◇八戸市美術館特別展「石橋宏一郎を巡る画家たち」出品のため、鷹山絵画作品貸出。(2日)
- ◇八戸商工会議所女性会14名様来館。鷹山館長八戸市立長者中学校で講演会。(3日)
- ◇八戸市美術館ホールにて入館者1,245人。(28日)

の会と交流。(4日)

◇八戸市小学校長会 16名様来館。(5日)

◇鷹山館長八戸市立小中野小学校、大館中学校で講演会。池坊青森支部 29名様来館。(6日)

◇鷹山館長十和田市教育委員会主催事業による講演会。(7日)

◇平賀町立平賀東小学校 15名様来館。(8日)

◇宮城県中新田町公民館 13名様来館。(12日)

◇川内町校長会 8名様、海老川町青葉会 23名様、野辺地町農協婦人部 15名様来館。(15日)

◇鷹山館長上北町保健センターで講演会。(16日)

◇青森放送絵馬館を取材。(17日)

◇福井県立博物館絵馬を取材。(18日)

◇木村守男青森県知事来館。平山展を鑑賞。(19日)

◇RABラジオに鷹山館長生出演。(20日)

◇法相宗大本山薬師寺管主松久保秀胤師による講演会「玄奘三蔵法師と平山郁夫画伯大壁画」を七戸町柏葉館で開催。(21日)

◇青森放送出会いふれあい生テレビに鷹山館長生出演。(22日)

◇鷹山館長青森市障害者促進協議会で講演会。(24日)

◇北彩観光 27名様来館。(25日)

◇鷹山館長青森若葉養護学校で講演会。建設経営研究会 20名様来館。(26日)

◇平山郁夫展最終日、会期中の入館者1,245人。(28日)

#### 【11月】

- ◇平山展撤去及び常設展示作業のため臨時休館。(29日、11/1日)
- ◇第1回鷹山賞児童作品展審査のため、二科会会員濱田進先生来館。濱田先生、富士七戸町長、佐藤七戸町教育委員会教育長、鷹山館長の4名により厳正な審査が行われ、入賞・入選作品が選定される。(2日)
- ◇八戸市美術館特別展へ貸出中の鷹山作品返却。(6日)
- ◇NHK弘前文化センター 20名様来館。(7日)
- ◇金木中学校PTA 28名様来館。(10日)
- ◇鷹山館長三沢市立六川目小学校で講演会。(14日)
- ◇鷹山館長三戸町中央公民館で講演会。(17日)
- ◇下田町文化協会 15名様来館。(18日)
- ◇第1回鷹山賞児童作品展及びJQA第1回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展展示作業のため臨時休館。(20、22日)
- ◇来賓として小野雅文JQA会長をお招きし、第1回鷹山賞児童作品展授賞式開催。終了後、同展並びにJQA第1回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展、児童生徒父兄の懇親会を開催。(23日)
- ◇鷹山館長三沢市古牧温泉においで青森県子ども会主催事業による講演会。(25日)



# 父 鷹山宇一を語る

本年6月2日の友の会総会終了後に、鷹山ひばり館長を講師にお招きして美術講演会を開催しました。

鷹山家のルーツから画家としての日常まで、様々なエピソードをお話いただき大変勉強になる時間を過ごすことができました。前回に引き続き講演の内容を紹介いたします。

美術館長

## 鷹山ひばり

絵描きの道を歩む決意をした父は、旧制青森中学校を卒業すると同時に上京いたしました。寄宿先は、阿佐ヶ谷で郵便局長をしていた父方の伯父宅でした。結婚が決まって挨拶に行った母は、今でもその家をよく覚えていてと云っています。しばらくして東京での生活に慣れた父は、その伯父宅を離れて下宿をしました。

その下宿先で一緒になったのが会津出身の版画家斎藤清でした。父はその頃まだ版画をやっており、斎藤先生は「天才に会ったかと思つた」と父を評して下さいました。父は、何枚も摺れる版画は芸術品としての価値がないと云って、満足できた一枚を残して原板を割っていたそうです。先生は「天才は何と勿体ないことを平気でやるのか」と、とても惜しんだとの事でした。

又、戦時中には、父が無雑作に放っておいた作品をもらい受け、会津のご実家に疎開させてくれていました。鎌倉の家を離れる時、「鷹山から預かった作品だから」と私に持ってきて下さいました。限られた量しか送り届けることが出来なかつた時代に、父の才能を認めてくれたこの孤高の版画家は、それは見事な程に完璧に保存をして、半世紀後にこの美術館に飾る作品を残しておいてくれました。

体の弱かつたお嬢さんをもつた斎藤先生の姿を見て、家族を持つ大変さを悟つた父は、それから長い間結婚することに躊躇したと云っておりました。

又、斎藤義重、桂ユキとの出会いもその頃でした。

斎藤義重先生は、亡くなつた友人の奥さんと新宿のアパートに住んでいて、戦時中食料が全くななくなつた時「鷹山が郷里からご馳走を持って帰ってきた」との話を聞き、勇んで仲間と出かけたそうです。父の部屋に入ったら、ご馳走はご馳走でも、何本もの酒瓶を前に父が得意満面の顔で皆を迎えたので気がぬけたと話されました。さすが、大酒飲みの方も米のエキスではなく、やはり噛みごたえのある粒の方を食べたかつた、心の中で皆思つたそうです。



父は夜店で買った天狗の面を守り神としていました。ある日、遊びに来た桂ユキ先生が賽銭を置いて拝んだところ、次の日大作が突然売れたと大喜びで御礼にこられました。その話を聞いて同じように賽銭を置いていった、角浩先生や松島正幸先生には、何のご利益もなかつたと父が申しておりました。その天狗様は、父が毎朝、塩、米、水、酒を取替えて、夜には酒の肴を上げて大切にお守りをしていました。父が、遠く旅立つた時から形相が変わりはじめ、今では封印をして静かに我が家を見守っております。

私が小学生の頃、大酒飲みだつた父の元には、いつも客人が絶えませんでした。秋山庄太郎、林忠彦、大竹省二など二科会写真部の会員や、土門拳先生などとお会いしていました。

当館の顧問である秋山庄太郎先生が、帰り際酔っぱらつて家の木戸に用をたされました。元氣だつた曾祖母が怒つて二階の窓からバケツの水をかけ大声で叱り飛ばしました。それから秋山先生は、我が家でお酒を召し上がることはありませんでした。

「ルパン」での太宰治で有名な林忠彦先生は、それはステキな方でした。憂いをおびた後姿は、男のロマンや人生を感じさせ私は夢中になりました。一人暮らしの林先生と何とかならないかと秋山先生に相談したところ「林は昔世話になつた歳上の女性の面倒を今見ているから、あきらめた方がいい」と面白くなさそうに冷たく云い放しました。アキラメのつかない私は、直接林先生にお願いにいきましたが、「残り時間の少ない男よりも、長く幸せにしてくれる人を見つけた方がいい」と、あっさりとは断られてしまいました。

もし、あの時林夫人になつていれば、今七戸にはいなかったらどうと運命の分かれ道を不思議に思います。父は、大沢昌助先生とは教科書の挿絵のアルバイトを一緒にしていました。

大沢先生は、国語、社会、音楽と比較的挿絵の楽な教科をとり、父には理科や算数がまわつてきたそうです。理科の昆虫を描く時は、図録でも間違いがあるので、本物を探して丁寧に描いたと云っていました。「精密、緻密な仕事を若い時にやっていたお陰で、歳をとつてもきちんと蝶が描ける。」

大沢昌助は恩人だ」と、嫌みたつぷりに云つて笑う父の顔を見ながら、大沢先生の目や鼻や口がない、あののつぺら坊の少女像が重なつてきて困りました。

東京で生活していた父は、文京区白山上にある潮泉寺の方丈様と懇意にしておりました。この方丈様は文学や芸術を志していた若者を可愛がり、行き場のない芸術家の卵たちの面倒をみておられました。

その中には、直木賞作家になつた寺内大吉先生や、西武オーナーであつた堤清二氏らがいりました。

文学青年で一番歳下の堤清二氏は、気の毒なことに先輩たちの使い走りをして、寺の雑用をいつも言使つていました。それでも毎日のように、文学に芸術にお互いの持論をぶつけ合つて熱き日々を過ごしながら己自身を成長させていたのだし、どうにか。

絵描きになつた父の地塗りに、このような刻があつたからこそ、淡い詩的作品が描けたのだと、方丈様の存在を忘れてはならないと思つております。

その方丈様が仲人となつて近所に住んでいた母が嫁ぎました。

【次号に続く】

特別展  
『シャガールのアレコ』  
鑑賞ツアー  
研修旅行記  
野坂 幸子

9月15日(土) 友の会の研修旅行の案内を頂きました。「西洋名画への招待」のポスターを目にする度に立ち止まるとルノアールの優しい美女が誘い掛けてくれたので、ついに重い大きな腰を上げました。  
小雨の土曜日11時10分頃、中央公民館に行くバスが待っていました。  
初めて参加するので、少しすまして乗ったつもりでしたが、皆さんに「おはよう。今日はよろしくね。」と声を掛けられたので、すぐに打ち解け楽しいバスの旅になりました。  
いただいた資料にシャガールのアレコがあつたので、特別展が楽しみになりました。心のどこかに舞台

のバックという軽い気持ちもありましたが、自分の目で確かめたいと思いましたが、果たして15億円が高いのか、安いのか、青森県はいい買い物をしたのかと？ 考えてるうちに、バスはホテル青森に着きました。中世の西洋画を思わせる薄暗い部屋に美味しいお弁当が用意されていました。皆さんと顔を合わせましたら懐かしい方とも会えて話がはずむ食事となりました。休憩後、いよいよ郷土館

でバルビゾン派から現代までの名画の鑑賞です。ミレ、クールベ、セザンヌ、ユトリロ、シャガール、キリコなど私の好きな画家の作品は心に染みる思いがしました。中でも一番気に入ったのは鏡の前で舞踏会へでも出掛けるのでしようか、うれしそうにそして美しく装う女性の絵ジュエル・ジェール・ルージュロンの作品でした。1つ1つの作品に思いは残りませんが、次のアレコ特別展青森市文化会館に移動しました。



郷土館の前にて 参加者全員で記念撮影

会館に入ったとたん大きな絵が舞台一杯に展示されて見えた。見る人が小さく見えるほどで大きな画面だけに筆のタッチも太くスケールを感じさせる三点でした。

アレコのあらすじを聞きシャガールデザイン衣装で踊るバレリーナを想像しながら鑑賞しました。  
シンポジウム「アレコと美術館の未来」を聴講して青森県立美術館の在り方と今までと活用の仕方を変えていく必要を強く感じました。15億円を生かすためにも1日も早く県立美術館の建設完成を希望したい。  
名画にふれたわくわく研修旅行に参加した皆さんが笑顔になり、心にゆとりが見えました。皆さんと共に

友の会海外研修旅行

イタリアアルネサンス紀行

第一次募集締切間近!

前回の会報24号でお知らせいたしましたでしたが、残念ながらあまり申込がありません。この頃のテレビ、新聞などの報道で海外旅行に対する不安を感じる方が増えているような気がします。2年先の予定でもありませんから、万が一心配な情勢があれば予定を変更、延期、又、申込後でも旅行直前に再確認して都合が悪ければキャンセルできますので、お気軽にお申し込み下さい。

名画を鑑賞できたことを感謝致します。友の会会員

友の会入会のおすすめ  
及び更新について

平成14年度の更新手続きは、美術館窓口、または、同封の郵便振替用紙による方法にて随時受付いたします。なお、会員の種別と会費については、同様です。

会費規程【規約第5条】

- ★一般会員 年額3千円
  - 【特典】①ご招待券3枚贈呈②入場料・ミュージアムグッズ割引【一部対象外有り】
  - ③研修旅行・講演会・会報等のお知らせ
  - ★個人特別会員 年額1万円
  - 【特典】①一般会員②特典②会員証提示によりご本人と同伴者1名迄入館無料
  - ★法人特別会員 年額2万円
  - 【特典】①一般会員②③の特典②会員証提示により代表者と同伴者3名迄入館料無料
- ※昨年から引き続き、新規及び更新会員の皆様に「鷹山手一デッサンシート」をプレゼントいたします。

編集後記

今年度の特別展も無事終わり美術館は静かな時を迎えます。監視ボランティアに多数ご協力下さいまして本当に感謝しております。

12月8日 何かとお世話になつている大池亜希子学芸員が華燭の宴を挙げられました。これから会報の編集等ご協力よろしくお願ひします。

では、来年2002年が皆様方にとつて素晴らしい年になりますように心からお祈りしています。

編集係 M・O